

仙人通信 81 高ドッキョウ(1133m)

高ドッキョウは、最南端の山梨百名山で、山梨南部地区と静岡清水地区との県境の山である。ドッキョウとは「読経」と思っていたが、興津川沿いの中河内村落からの山容は、関東地区にある「ドッケ」・「ジョッキ」とカナ書きされた同語源の「突起」を思わせる。国道 52 号から興津川に沿って中河内村落の突き当たりまで車で入り、樽峠から高ドッキョウと平治の段を往復することにした。名産である茶の畝畑の横に車を止めて、登山口と書かれた道標に従い、板井沢に沿って、植林された杉林を進む。やっと芽を出したジュニヒトエやウバユリそして黄色い花が咲き始めたネコノメ草が早春を教えてくれる。沢筋のワサビ田では、白い小さな花が咲き始めている。鳥が落とした実生のミカンも黄色く色付いて、静岡に来たとの実感が湧いてきた。三極も黄色い花を付け向かえてくれる。30 分程で山小屋の分岐を左に見て、更に暗い杉林の中の沢筋を登る。樽峠までは殆どが杉林で 55 分程だ。樽峠の真新しい道標には山頂まで 2 時間 30 分とある。小生の計画では 1 時間 30 分なのに！！。コースは尾根路となるも両側とも檜や杉でその上背丈程の熊笹で視界は利かない。岩カガミの仲間「イワウチワ」の葉が赤く色付いて春の光に輝く。2 つ目のピークを過ぎたころから木々もミズ榎・リョウブ・ブナ・シラビソとなり、白い富士山が後方に、また駿河湾や反対側には篠井山が時折梢越し見え始める。1 時間を要して 15 ほどの小さなピークを過ぎ、最後の急登の 45 分を登ると二等三角点の高ドッキョウの山頂である。山頂周辺は木々が多く、展望は誉められたものでないが梢越しに富士山から十枚山まで望める。安倍東山稜と篠井山の間を通り興津川へと繋がる韮崎静岡構造線が想定できる。一休み後、70 分ほど掛けて樽峠に戻り、平治の段に向かう。10 分程は檜と杉の林で、眼下に林道のおマケ付きだ。その先は 10 c m 程の丸太 2 段の急な階段である。真っ直ぐに延びた階段を 25 分登り詰め、更に 15 分程で貫ヶ岳の分岐である。平治の段の展望台は直ぐ上だ。昨日の低気圧も東の海上に移動して高気圧圏であるが、朝鮮半島から中部地区の上空に絹層雲が張り出して快晴とは行かないも、周囲の山波はよく望める。竜爪山・浜石岳・伊豆の達磨山・天城山・愛鷹山・そして中央に富士山・御坂山塊や白く化粧した天守山地、遠く秩父や八ヶ岳も確認できた。東大地震研が断層上に在ることで有名な根熊断層が目の下を浜石岳に向う。安倍東山稜やこの浜石岳層が南部と駿府の間に立ち塞ぐ為、峠路が多く、北の安倍・刈安・十枚山・地藏・細嶋・田代・徳間・樽・中沢と 9 つもの峠がある。これらの峠を通して、多くの歴史が繰り広げられた事を想像して眺めるのも楽しい。そこに八王子から来られた 50 代の元気のよい女性が登って来られた。山談義をしながらの下山となり、お陰で暗い杉林も楽しく下山でき、思い出に残る 6 時間強の山旅ができた。(h21.3.11)

高ドッキョウ山頂と富士山



三極の花



平治の段からの富士山

